

のぞましい家庭教育のしおり

～有意義な「読書タイム」を～

現在、刈谷市内の全ての小中学校では、朝の読書の時間が設けられています。毎日、朝の会の前に10分程度、先生を含め、学級全員が読書を行います。私が勤務している学校では「読書タイム」と名付けられていますが、最近この「読書タイム」のよさを改めて感じるようになりましたので紹介します。

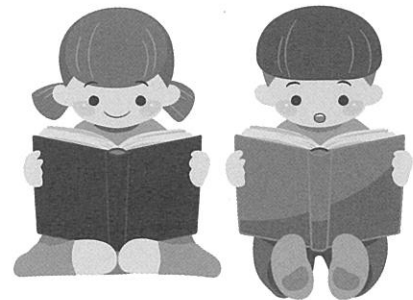
私は昔から本を読むのが好きな方で、教員になってからも月に4～5冊は本を読んでいました。しかし、昨年度から学級担任をもたなくなったことを機に、読書量は一気に減って、月に1冊読めばよいくらいになってしまいました。原因ははっきりしています。学級担任をもたないため、生徒とともに朝の読書をするのをしなくなり、自分の「読書タイム」がなくなったことです。

これは私感ですが、読書というのは1ページ目を読むのに一番エネルギーが必要です。最初の1ページを超えれば、あとはそれぞれの本の魅力で読み進めていくことができます。この本の読み始めを、これまでは「読書タイム」が助けてくれていたのです。「読書タイム」を失った私は、時間があるときでも読書は選ばず、スマートフォンを触ったり、テレビを見たりして、時間を無為に過ごしてしまいます。

私には小学2年生の息子がいるのですが、逆にこの子は昨年度小学校に入学してから、家で本を読むことが格段に増え、本屋さんで欲しい本をねだるようになりました。入学前まではテレビでアニメを見たり、スマートフォンで動画を見たりすることが多く、あまり絵本や図鑑に手を伸ばすことがなかったのですが、小学校の「読書タイム」のおかげで本を読むことの魅力に気付いてきたのだと思います。今では、恥ずかしながら我が家で一番本を読んでいるのは息子です。

子をもつ親ならば、我が子にはできるだけ多くの本を読んでもらいたい、読書好きになってもらいたい、と誰しも思うのではないのでしょうか。しかし、子どもに「もっと本を読みなさい」と言うだけでは、ほとんど効果はありません。むしろ逆効果になってしまう場合もあるでしょう。

そんなとき、休日だけでも、家族全員で本を読む「読書タイム」を作り、読書の習慣をつけていくのはいかがでしょうか。そして、お互いが読んでいる本の内容について、会話するのもよいかもかもしれませんね。私もこれから、自分が読書を楽しむ姿を息子に見せることで、読書の魅力や大切さを伝えていきたいと思っています。



一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜：9時～17時(国民の祝日・年末年始を除く)

☎：62-6313 電話相談・来室相談

・刈谷市 **青少年電話相談** ☎：23-8888 月～金曜 9時～17時

・県教育相談 **こころの電話** ☎：052-261-9671 10時～22時

